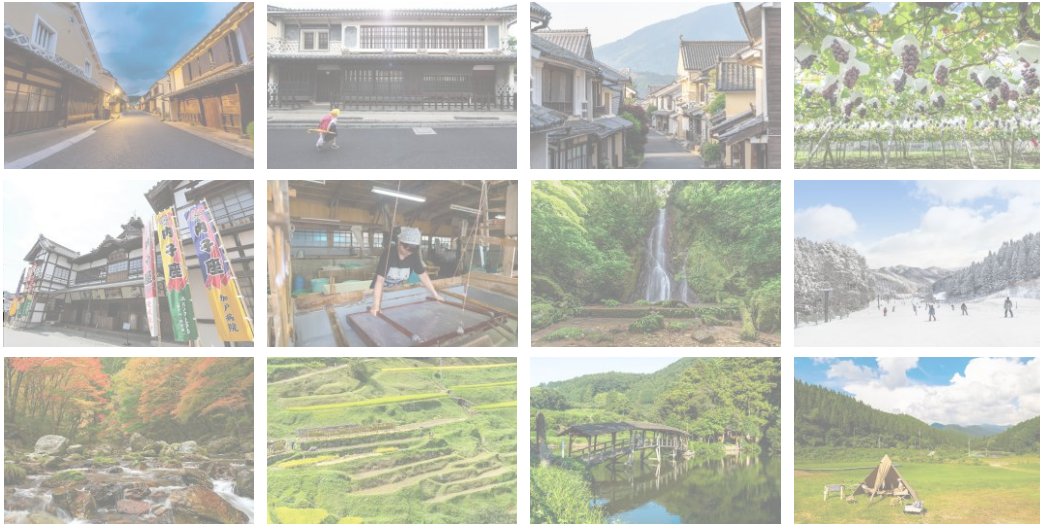


かわらないように

提言書

かえてゆく



令和8年3月

内子町環境基本計画アクションプラン策定市民会議

# 1. 市民会議の概要

## (1) 実施体制

参加者	18歳以上の町民1,000名を無作為抽出し、参加希望のあった方、地元企業、内子高等学校生徒など 計35名
主催	内子町環境政策室
アドバイザー	愛媛大学大学院農学研究科 生物環境学専攻 高橋 真 教授
講師	第1回(テーマ:脱炭素化) 折野 未莉氏(株式会社ウェザーニューズ) 内藤 昌典氏(有限会社内藤鋼業) 第2回(テーマ:自然) 河野 裕之氏(NTTビジネスソリューションズ株式会社) 第3回(テーマ:暮らし) 中村 優理子氏(松山市環境部環境モデル都市推進課) 第4回(テーマ:環境教育) 河野 裕之氏(NTTビジネスソリューションズ株式会社)
オブザーバー	NPO 法人環境 NPO サン・ラブ 多比良 康彦 理事長
ファシリテーター	NTTビジネスソリューションズ株式会社
運営事務局	NTTビジネスソリューションズ株式会社
運営協力	愛媛大学社会共創学部 梶本陽世さん、スー・モン・チョーさん

## (2) 市民会議の流れ

内子町環境基本計画アクションプラン策定市民会議は、2025年9月から12月にかけて全4回開催し、各回のテーマに沿った専門家等の話を聞く「情報提供」と町民同士で話し合う「グループワーク」を行いました。

本提言は、市民会議の結果をもとに、町民・企業・町が実施すべき**101項目**の取組をまとめたものです。

	日時	会場	テーマ	参加者数
第1回	2025年9月27日(土) 9:00~12:00	内子自治センター	脱炭素化	17名
第2回	2025年10月25日(土) 9:00~12:00	COWORKING-HUB nanyo sign(南予サイン)	自然	18名
第3回	2025年11月15日(土) 9:00~12:00	内子町森林組合小田支所	暮らし	17名
第4回	2025年12月13日(土) 9:00~12:30	五十崎凧博物館	環境教育 取りまとめ	15名

## 2. 市民会議からの提言

(★マークは特に重要と考える取組です)

### 取組の柱1 脱炭素化「ゼロカーボンシティうちこを実現しよう」

- ◆ 2050年までの脱炭素社会の構築を目指して、**30項目**の取り組みを推進します。

#### 基本施策1-1 省エネルギー化の推進

##### 提言① 住宅・建築物の断熱性能を向上させる

町 民	1. 高断熱・高気密で自然エネルギーを活用するパッシブデザイン <sup>1</sup> の省エネ住宅を選び、快適性と光熱費削減を両立する。
企 業	2. ペアガラス <sup>2</sup> ・内窓の設置や遮熱シートの利用等により建築物の断熱性能を向上させる。 3. AIやデジタル技術を活用してエネルギー使用を最適化し、省エネと快適性を両立させる。
行 政	4. 公共施設や学校にペアガラスや内窓を設置するなど、断熱性能を高める改修を推進し、冷暖房効率の向上による光熱費削減と快適な室内環境を確保する。★

##### 提言② 省エネ家電へ買い替える

町 民	5. 古い照明やエアコンなどの家電を省エネ性能の高い製品に買い替え、電力消費を抑えながら快適な暮らしと光熱費削減を実現する。
行 政	6. 省エネ性能の高い家電への買い替えを支援し(小規模な事業者を含む)、消費電力の削減と光熱費の低減を促進し、環境負荷の軽減と持続可能な暮らしを後押しする。★

##### 提言③ 事業所・工場に高効率設備を導入する

企 業	7. 事務所や工場に高効率の空調やLED照明を導入し、省エネと光熱費削減を実現する。
行 政	8. 事業者による高効率機器の導入・更新を促進するため、補助金やポイントなどのインセンティブを付与し、省エネとコスト削減を後押しする。★

<sup>1</sup> パッシブデザイン:エアコンなどの機械設備(アクティブ手法)に極力頼らず、太陽の光、熱、そして風といった自然エネルギーを最大限に活用・調節して、快適な住環境をつくる設計手法のこと。

<sup>2</sup> ペアガラス:2枚のガラスの間に乾燥空気などの層を挟んだ窓ガラスのこと。空気層が断熱効果を高め、結露の防止や冷暖房効率の向上に貢献する。

**提言④ 移動や物流における環境負荷を低減する**

町民	<p>9. 近距離の移動は徒歩や自転車を心がけ、遠距離や通勤にはバスや電車などの公共交通機関を積極的に利用することで、二酸化炭素排出量の削減と健康増進を図る。</p> <p>10. 輸送にかかる二酸化炭素排出量の削減や町内生産者の支援のため、地産地消の食品・商品を購入する。</p>
町民 ・ 企業	<p>11. 荷物の積み下ろし等で駐停車する際はアイドリング<sup>3</sup>をやめ、発進時はふんわりアクセルを意識するなど、環境負荷低減と安全運転を心がける。</p> <p>12. 自家用車・社用車の購入・買い替えの際には環境に配慮した車(ハイブリッド車、電気自動車等)を選択する。</p>
行政	<p>13. 環境に配慮した車(ハイブリッド車、電気自動車、燃料電池自動車等)の購入やエコドライブの普及啓発を行う。</p> <p>14. 町内へのEV充電設備等の整備を計画的に進める。</p> <p>15. (電動付)自転車の購入支援や自転車専用道の整備により、自転車利用を促進する。</p> <p>16. 公用車の電動化や、バスのバイオディーゼル燃料<sup>4</sup>の使用等を推進する(温暖化対策の啓発を図るラッピング等を含む)。★</p> <p>17. 交通弱者に対してEVデマンドタクシー<sup>5</sup>やグリーンスローモビリティ<sup>6</sup>を利用した生活支援(買い物支援等)を行う。</p>

**提言⑤ ライフスタイル・ビジネススタイルを省エネ型に転換する**

町民	<p>18. 着る服や暑さ対策グッズを活用してエアコンの稼働を抑え、設定温度を適正に管理する、使っていない家電のコンセントを抜くなど、日常の工夫で省エネ行動を実践する。</p> <p>19. 自分に取り組んでいる省エネ対策を身近な人に発信し、地域の集会なども活用して情報共有を進めることで、省エネ行動を地域に広げる。</p>
企業 ・ 行政	<p>20. 空調負荷の低減(グリーンカーテンの使用、適切なメンテナンス等)、燃料転換(ボイラー等)、照明の適正利用(照度調整)などの省エネ行動を実践する(行動変容アプリの活用等)。★</p>
行政	<p>21. 脱炭素経営を積極的に行い、地域脱炭素化を推進するパートナー企業の育成・支援を行う。</p>

<sup>3</sup> アイドリング:自動車走っていないときにエンジンをかけっぱなしにすること。信号待ち、荷物の上げ下ろし等の駐停車の際にアイドリングをやめることでエネルギー使用量の低減につながる。

<sup>4</sup> バイオディーゼル燃料:廃食用油・菜種油等を原料にメタノールと反応させて作られる軽油代替の再生可能燃料のこと。

<sup>5</sup> デマンドタクシー:利用者の予約に基づいて運行する乗合タクシーのこと。路線バスとタクシーの間のような公共交通サービス。

<sup>6</sup> グリーンスローモビリティ:時速20km未満で公道を走れる小型の電動車両による環境に優しく地域に密着した低速の移動サービスの総称。

### 基本施策1-2 再生可能エネルギーの普及

#### 提言⑥ 太陽光パネルを導入する

町民 ・ 企業	22. 住宅や事業所の屋根やカーポートに太陽光パネルを導入する。 23. 太陽光パネルと合わせて、蓄電池や電気自動車等の蓄電機能をパッケージ導入する。
行政	24. 太陽光パネルや蓄電池等の設置に対する補助制度等を創設する。 25. 公共施設・学校等に太陽光パネルを計画的に、率先して導入する。★ 26. 国・県・企業と連携して、使用済み太陽光パネルのリサイクルの仕組みを構築する。

#### 提言⑦ 再生可能エネルギー由来の電気を調達する

町民 ・ 企業	27. 家庭や事業活動で使う電気を、再生可能エネルギーを多く含むプランに切り替える。★
行政	28. 公共施設・学校等で使用する電気をすべて再生可能エネルギー電気に切り替える。

### 基本施策1-3 吸収源対策の推進

#### 提言⑧ 植林活動への参加や町内産木材の利用を心がける

町民	29. 植林体験・木こり体験・木工体験などに参加し、町内の森林資源に親しむ。
企業	30. 植林活動等を通じて、内子町の豊かな森林の保全を推進する。

## 取組の柱2 自然「はぐくもう 自然とともに生きるまち」

- ◆ 森や川などの豊かな自然環境と生物多様性の保全・創造や景観活用の**26項目**の取り組みを推進します。

### 基本施策2-1 生物多様性の保全・創造

#### 提言① 豊かな自然環境と生物多様性を育む里地里山を保全する

町 民	1. 里山ハイキングなど、自然と触れ合い健康増進を図りながら、里山をきれいに保つ。
企 業	2. 耕作放棄地を活用して民間資本による効率的な農業経営を行う。★ 3. 林業・農業等の繁忙期に人材派遣を行うなど、地域の農林業を支える。
行 政	4. 内子町の豊かな自然環境をPRし、企業版ふるさと納税等を活用した里地里山保全を推進する。 5. 耕作放棄地や放置人工林の把握・管理・見える化と民間・個人による活用(移住対策含む)を支援する。★ 6. 放置竹林を整備し、その竹を使ったイベント(例:ギネスに挑戦～流しそうめん大会)等を開催する(収益は森林保全・耕作放棄地対策等に活用)。★ 7. ごみ拾いでポイント付与する仕組みの創設や趣向を凝らした看板(不法投棄防止)の設置等により、里山等の景観美化を推進する。

#### 提言② 生き物の生息環境や小田深山の原生林等を保全する

町 民	8. 外来種や希少野生動植物に関する規制・ルール(外来生物法・種の保存法など)を正しく理解する。
企 業	9. 事業所内にビオトープ <sup>7</sup> を設置する等、生物多様性の保全に努める。
行 政	10. 地域に生息する在来種・外来種・絶滅危惧種などをまとめたガイドブックの作成や案内看板の設置等により、生態系に関する情報に加え、規制・ルールの周知を図る。★ 11. ため池・田んぼの保全により生物多様性保全を図る。 12. 地域の生物多様性を保全するためのアイデア募集(コンテスト)や、ブナ原生林を散策しながら生き物観察をするイベント等を企画・開催する。★

<sup>7</sup> ビオトープ:ドイツ語の「Bio(生き物)」と「Top(場所)」を組み合わせた言葉で、「生き物が暮らす場所」を意味し、自然の生態系そのものや、人間が意図的に作り出した動植物が共存できる空間を指す。

## 基本施策2-2 自然資源や景観の保全・活用

## 提言③ 環境配慮型農業等を通じて、内子町のブランディングを図る

町民	13. 営農事業者が地域資源由来の肥料・土壌改良剤(生ごみ由来の堆肥や竹炭等)を積極的に活用する。★
企業	14. 飲食店等が食品残さをコンポスト <sup>8</sup> 等により堆肥化し、町内農家による資源循環・有機栽培を支援する。 15. 里地里山の恵みである農産物や工芸品の販売、猟師・レストランが連携したジビエ <sup>9</sup> 料理の提供等を行い、観光振興につなげる。★ 16. 町内企業が環境への取組や地元愛(内子を守りたい気持ち)を積極的にアピールする。
行政	17. 有害鳥獣対策、農機具等の共同化、6次産業化の支援や町内産品のブランディング(ふるさと納税の活用等)などにより、生産者等を積極支援する。★ 18. 商店街等と連携し、道の駅で発生する食品残さとともに一体的に堆肥化し、農地還元の循環を構築する。

## 提言④ 地域資源を活かして観光振興・移住促進等を図る

企業	19. 町内の観光関連事業者等によるエコツーリズム(自然に触れ合い・守りながら楽しむ旅行)のメニューを拡充し、インバウンド <sup>10</sup> を呼び込む。★ 20. 地域でとれる素材や使われなくなったものを活かして、新しい商品(アップサイクル <sup>11</sup> 商品)を開発する。 21. 開発行為にあたっては、町民の声にも耳を傾け、景観や生態系に配慮する(生物多様性に関する企業目標の設定も検討)。
行政	22. 空き家・古民家・廃校やその周辺の自然環境を活用した農業・食堂体験の提供(観光支援)や移住支援(“日本むかしぐらし”の推奨)を行う。★ 23. 地元の高校生・大学生が内子町の自然や文化・産業に触れ合い、地域の魅力を体験しながら学べるキャリア教育を提供する。 24. 企業の環境保全活動の可視化・価値化(J-クレジット等)を支援する。

<sup>8</sup> コンポスト:生ごみや落ち葉などの有機物を微生物の力で発酵・分解させて堆肥に変えるための容器のこと。

<sup>9</sup> ジビエ:フランス語で狩猟によって捕獲された野生の鳥獣(シカ、イノシシ、クマ、鴨など)の肉を指し、近年では農作物被害対策として捕獲された動物の有効活用(食肉利用)が推進されており、高タンパク・低カロリーで栄養価が高い食材として注目されている。

<sup>10</sup> インバウンド:外国人による訪日旅行のこと。

<sup>11</sup> アップサイクル:廃棄されるはずの製品や素材にデザインやアイデア、技術を加えて、元の製品よりも価値の高い別の製品に生まれ変わらせること。

**基本施策2-3 健全な水環境の保全**

**提言⑤ 森林保全(水源涵養機能の維持)を通じて健全な水環境を保全する**

町民 ・ 企業	25. 町民1人1本の植樹や企業による植林活動を通じて、内子の森を守り育てる。★
行政	26. 苗木の配布等により、町民・企業による森林保全活動を支援する。

## 取組の柱3 暮らし「ずっと住み続けたいまちを創造しよう」

- ◆ 循環型社会の形成と暮らしやすい生活環境づくりのために**34項目**の取り組みを推進します。

### 基本施策3-1 ごみの減量

#### 提言① 分別等によるごみの減量を推進する

町 民	1. ものを大切に使う、分別を徹底する、必要なものだけを買う(環境ラベルも活用)など、ごみを出さないように意識して行動する。
企 業	2. リサイクル素材や、使用後を考えたりサイクルしやすい素材を採用する。 3. 製造段階で発生した端材等を活用した商品(DIYキット等)の開発・販売を行う。
行 政	4. ごみの分別品目の細分化、資源回収BOXの増設、ナッジ活用(ごみ袋へのメッセージ表記等)により、町民の分別行動を促す(行動変容アプリの活用等)。 <b>★</b> 5. 生ごみ水切り容器の無料配布等により、生ごみを出す前に水分を絞る「水キリ」を推奨する。

#### 提言② プラごみ・紙ごみを削減する

町 民	6. マイ〇〇(バッグ・ボトル・箸・歯ブラシなど)を持参し、使い捨てごみの削減に努める。 <b>★</b> 7. ペットボトルキャップ・古着等のワクチン寄付などの取組に参加する。
企 業	8. 容器包装の簡素化やマイボトル持参者への値引きなど、一度の使用で廃棄される「ワンウェイプラスチック」の削減に努める。 9. 従業員に対して、マイボトルの持参(プラスチックごみの削減)など、行動変容を促す(行動変容アプリの活用等)。 10. コピー用紙の削減(裏紙利用等)に努めるとともに、紙媒体によるチラシの配布を少なくする。
行 政	11. 公共施設に「給水スポット」を設置し、マイボトルの活用を推進する。 12. 給食で使用する容器のエコ素材(バイオプラスチック <sup>12</sup> 等)の活用を検討する。 13. 食品トレイ等の店頭回収によるリサイクルを推進する(回収拠点の情報の周知など)。 14. 紙媒体による広報誌の配布をやめることを検討する。

<sup>12</sup> バイオプラスチック:植物などの再生可能な有機資源を原料とするバイオマスプラスチックと微生物等の働きで最終的に二酸化炭素と水にまで分解する生分解性プラスチックの総称で、石油依存度低減や温室効果ガス削減を目指した環境配慮型素材。

## 提言③ 食品ロスを削減する

町民	15. 飲食店で食べられる量だけ注文し、食べ切りを心がける(余るときは分け合う)。 16. 自宅でリボンベジタブル <sup>13</sup> (豆苗・ねぎ・小松菜)等の再収穫に取り組む。
企業	17. 食品ロスを減らすために、店舗での量り売り、規格外品の活用、てまえどり <sup>14</sup> の推進(すぐに使う食材は賞味期限が近いものを買う)や、フードドライブへの提供等に取り組む。 18. 社内の宴会時には食べ切り(3010運動 <sup>15</sup> )・持ち帰り(可能店舗のみ)を推奨する。 19. 町内の特産品等について、食品ロスがでないよう加工・販売する(6次産業化)。
行政	20. 賞味期限切れ前の値引き商品の販売に対して、店舗へエコポイントを付与する制度(店舗への補助)を創設する。 21. 町民がもらいすぎた野菜等の食材を共有できる「おすそわけボックス」を設置する。★

## 提言④ 古着等のリユース・リペアを推進する

町民	22. 着なくなった古着等は、知りあいに譲る・リサイクルショップやフリマ(アプリ含む)を活用する等、リユースを心がける。 23. 壊れたものを修理して使うなど、ものを大切に使う。
企業	24. 自社が販売した製品の使用後のものを回収し、リユース(or リサイクル)を促進する。
行政	25. 古着・おもちゃ・家具などの回収の仕組み(BOX設置等)やミシン購入補助(衣類のリペア推進)などを検討する。★ 26. 町主催のフリーマーケットを開催し、町民のリユースを促進する(公費で購入した使用後の備品も販売)。 27. 古着をリユースした衣類・バッグ等によるファッションショーの開催や、ハンドメイド作家さんとコラボしたイベント等を開催し、古着の魅力をより感じることでできる機会をつくる。

<sup>13</sup> リボンベジタブル: 普段捨ててしまう野菜の根やヘタ、芯などを水に浸すなどしてもう一度育て、再収穫する「再生野菜」のこと。

<sup>14</sup> てまえどり: 食品を買うときに、賞味期限・消費期限が近い商品(手前に陳列されているもの)を積極的に選ぶ購買行動のこと。これにより、期限切れによる食品ロス(廃棄される食品)の削減につながる。

<sup>15</sup> 3010運動: 宴会や会食で、「最初の30分間と最後の10分間はお料理を楽しむことで食べ残しを減らしましょう」という運動。

**提言⑤ ポイ捨てのないきれいな町を目指す**

町 民	28. ごみ拾いの習慣化、スポーツごみ拾い等のイベントへの参加により、町の環境美化や海ごみ対策に貢献する。
企 業	29. 店舗で販売した製品のごみは店舗で回収する(ポイ捨て防止)。
行 政	30. 不法投棄防止を呼びかける工夫を凝らした看板(心に訴えるデザイン)を設置する。 31. ごみ拾いイベントやポイント制度を創設する。★

**基本施策3-2 資源の地域内循環****提言⑥ 生ごみの堆肥化による町内の資源循環に取り組む**

町 民	32. 家庭で出た生ごみの堆肥化を共同コンポストの設置等で実践する。★
企 業	33. 町内から廃棄された生ごみ由来の堆肥を積極的に利用する。
行 政	34. 給食センター・食堂など、町内から排出された生ごみを回収し、町内で資源循環させる(学校給食の未食分は販売等も検討)。

## 取組の柱4 環境教育「エコロジータウンを次世代へ引き継ごう」

- ◆ こどもから大人まで切れ目のない環境学習・環境活動を実践するため**11項目**の取り組みを推進します。

### 基本施策4-1 環境学習・活動の推進

#### 提言① 地域の環境学習・活動に参加・実践する

町 民	1. 区単位で(人権・防災と同じように)自然環境保全をテーマとする勉強会を実施する。 2. 子どもたちが内子町の自然環境を学び、郷土愛を育むよう、各地域の“昔”を知る世代と若い世代の交流会・勉強会を開催する。★
企 業	3. 従業員の環境に配慮した行動変容を促すよう社内教育を行うとともに、徒歩・自転車通勤にも手当を出す(行政の補助も検討)など、支援を行う。★
行 政	4. 次代を担う子どもたちが楽しく内子町の自然環境に触れあえるプログラム(小田川の川遊び・農業体験・食育・生き物探索・スポーツごみ拾い <sup>16</sup> 等)を提供する。 5. こどもたちが自然の中で安心して遊べる公園・アスレチック・木登り等を設置する。 6. 学校の授業や「総合的な探究の時間」等を活用して、環境問題・地域振興等をテーマにフィールドワーク等を通じて学び・発信する(学校・校長への提言、生徒公式SNSの活用等)機会をつくる。★ 7. 「5Rフェスティバル」やごみ問題についてのワークショップ・セミナー等を開催する。 8. 町民・企業の行動変容・ごみ拾いアプリ等の活用を促すとともに、地域でポイント還元できる仕組みづくりを行う。★

#### 提言② 環境学習・活動を実践する人材を各地域に育成する

町 民	9. 高校生・大学生が幼児・小学生向けの内子町ならではの環境教育教材(カードゲーム等)を製作し、子どもたちの環境教育を推進する。
企 業	10. 各企業の事業形態に応じて提供できる環境教育教材(食品会社→食育等)を町民等に情報共有する。
行 政	11. 環境教育を提供する団体・企業・個人と、それを活用したい人の情報交換プラットフォーム(アプリとの連動)を提供する。★

<sup>16</sup> スポーツごみ拾い:「ゴミ拾いはスポーツだ!」を合言葉に、制限時間内にチームでごみを拾い、量や種類に応じたポイントを競い合う競技のこと。

## 3. おわりに

今回、2025年9月から12月まで全4回にわたって開催された「内子町環境基本計画アクションプラン策定市民会議」に、アドバイザーとして関わらせていただきました。脱炭素、自然、暮らし、環境教育という4つのテーマのもと、町民の皆様、地元企業の皆様、内子高校生、大学生、行政職員の皆様が立場を超えて率直に意見を交わし、100項目以上に及ぶ提言として結実したことは、内子町にとって大きな財産であり、持続可能な未来のまちを創る礎になると感じています。

内子町の環境基本計画が掲げる「町並み、村並み、山並みが美しい持続的に発展するまち」、そして「かわらないようにかえていく」という理念を実現するには、守るべきものを大切にしながら、時代に応じてしなやかに変化していくための知恵と工夫が必要です。そして今回の市民会議では、従来のように行政が主導で施策を示すのではなく、町民一人ひとりがこの町の未来を「我がこと」として考えたことにより、町民・企業・行政が協力し、より良い町へと発展させていくための新たな目標や具体的な取組が見えてきたと感じます。

これから、計画を作る段階から実際に動かす段階へと進むなかで、様々な課題もあらわれてくると思います。しかし、この市民会議で得た知識や経験、そして人と人とのつながりは、今後の現実的な課題解決においても大きな力になるはずです。ここで生まれた対話と提言が、日々の暮らしの中の行動へとつながり、次の世代が「この町に生まれ、住んでよかった」と実感できる未来へと実を結ぶよう、私も引き続き伴走していきたいと思えます。

「内子町環境基本計画アクションプラン策定市民会議」アドバイザー  
愛媛大学大学院農学研究科 高橋 真 教授

今回、4回の市民会議にオブザーバーとして参加させていただきました。ご参加いただいた住民の皆様をはじめ、運営に携わられた関係者の皆様に、心より感謝申し上げます。

会議を通じて率直に感じたのは、年代や地区、職業、立場の異なる無作為に選ばれた、環境活動に熱心に取り組まれた経験のない方も含めた住民の皆様からだからこそ、これまで気づけなかった新しい視点や発想がいくつか示唆されたことです。

内子町は30年以上にわたり「エコロジータウン」を掲げてきました。私自身、県外から移り住み、諸先輩方が精力的に行ってきた環境分野の住民活動に関わる中で、担い手の高齢化や関心の低下に悩みを感じる場面もありました。また、過去に議論されたものの実現に至らなかった取組や、難しさから検討自体が止まってしまった例もあります。そうした中で、知らず知らずのうちに視野が狭くなっていたことに、今回の会議は気づかせてくれました。

本市民会議は、環境基本計画を「誰が、どのように実行するか」を具体化する第一歩です。取組を進めるうちに、すぐに答えが出ない課題も出てくるでしょう。しかし、将来この町に住んでよかったと実感でき、次の世代が住みたいと思える「エコロジータウン内子」の実現に向け、小さな一歩を積み重ねていくことが大切です。本提言がその確かな一歩となることを願い、引き続き皆様の力を結集していければ幸いです。

「内子町環境基本計画アクションプラン策定市民会議」オブザーバー  
NPO法人 環境NPOサン・ラブ 多比良 康彦 理事長

## 市民会議参加者の「私のかえてゆく宣言」

- ◎ 地元の物を使用する
- ◎ いらない物はおすそわけをする
- ◎ ごみの分別について、身近な家族や知人にもっと知らせて徹底する
- ◎ ごみを分別しマイバックを持参。まず自分の身の回りで出来る事をして行く。このすばらしい自然を守り保つ！
- ◎ 枝を有効活用する
- ◎ 凡事徹底(エコ活動を当たり前に)
- ◎ 愛せない物は買わない 持たない
- ◎ トイレトペーパーの使用量を少し減らす
- ◎ 徒歩 30 分圏内は歩いて移動する
- ◎ 歩く
- ◎ 環境の目で物事をみる！
- ◎ 賞味期限の長い商品の開発を推進する
- ◎ 道でゴミを見つけたら拾う♥
- ◎ ごみを出さない生活を心がける！(内子高校のごみ箱撤去?!)







## 内子町環境基本計画アクションプラン策定市民会議からの提言書

令和8年3月発行

発行 内子町環境基本計画アクションプラン策定市民会議  
(会議主催 内子町環境政策室)

編集 NTTビジネスソリューションズ株式会社